

# 神流町の文化財



群馬県神流町教育委員会

## 神流町の指定文化財一覧

| No. | 種類  | 指定名称                        | 指定年     | 所在地        |
|-----|-----|-----------------------------|---------|------------|
| 1   | 県重  | 阿弥陀三尊画像板碑                   | 昭和 49 年 | 柏木 107-2   |
| 2   | 県無民 | 神流川のお川瀬下げ神事                 | 平成 17 年 | 魚尾 719     |
| 3   | 県天  | 瀬林の漣痕                       | 昭和 40 年 | 神ヶ原 1241-1 |
| 4   | 町重  | 鰐口                          | 昭和 52 年 | 魚尾 719     |
| 5   | 町重  | 郷土刀（脇差 1 振）                 | 昭和 54 年 | 生利 9       |
| 6   | 町重  | 郷土刀（脇差 2 振）                 | 昭和 54 年 | 万場 1075    |
| 7   | 町重  | 十六羅漢模絵                      | 平成元年    | 黒田 180     |
| 8   | 町重  | 流鏑馬の的と鏝                     | 平成元年    | 万場 72      |
| 9   | 町重  | 鰐口                          | 平成元年    | 相原 52      |
| 10  | 町重  | 石棒                          | 平成 3 年  | 生利 1425    |
| 11  | 町重  | 石棒                          | 平成 3 年  | 小平字元郷 460  |
| 12  | 町重  | 青面金剛塔                       | 平成 3 年  | 青梨 1024    |
| 13  | 町重  | 大正院・九蔵の力くらべ石                | 平成 3 年  | 塩沢 357     |
| 14  | 町重  | 石造 閻魔大王と奪衣婆                 | 平成 4 年  | 麻生 203-6   |
| 15  | 町重  | 鏡鍔と銅鐙                       | 平成 4 年  | 柏木 1414    |
| 16  | 町重  | 不動明王像と観世音菩薩像                | 平成 14 年 | 塩沢 266     |
| 17  | 町重  | 東福寺の殿鐘（半鐘）                  | 平成 20 年 | 神ヶ原 292    |
| 18  | 町重  | 土生神社の彫刻                     | 平成 26 年 | 小平字元郷 460  |
| 19  | 町重  | 東福寺本堂の造作                    | 平成 28 年 | 神ヶ原 292    |
| 20  | 町重  | 木造開山芳谷永磨像、木造大権修理菩薩像、木造達磨大師像 | 平成 30 年 | 神ヶ原 292    |
| 21  | 町重  | 相切の庚申塔（青面金剛像塔）              | 令和 2 年  | 尾附字相切 13-1 |
| 22  | 町無民 | 中山神社太々神楽                    | 平成元年    | 魚尾 719     |
| 23  | 町無民 | 西御荷鉾山の「㊥（マルダイ）」             | 平成 26 年 | 生利 2208-1  |
| 24  | 町天  | 高塩東沢のイチイ                    | 昭和 54 年 | 船子 2301    |
| 25  | 町天  | 八倉下り山の大杉                    | 昭和 63 年 | 平原 1423-1  |
| 26  | 町天  | 龍松寺のしだれ桜                    | 平成 3 年  | 塩沢 266     |
| 27  | 町天  | 恐竜の足跡                       | 平成 8 年  | 神ヶ原 1241-1 |
| 28  | 町天  | お諏訪様の桜                      | 平成 14 年 | 船子乙 97     |
| 29  | 町天  | みかぶ帯の枕状溶岩                   | 平成 14 年 | 生利 1-4・1-6 |

（令和 5 年 1 月 31 日現在）

発行

神流町教育委員会生涯学習係・文化財調査委員会  
〒 370-1602 群馬県多野郡神流町大字神ヶ原 427-1  
TEL 0274-58-2111 <http://town.kanna.gunma.jp/>

県指定

## 1 阿弥陀三尊画像板碑

鎌倉時代後期の乾元 2 年（1303）8 月の年号と美しい画像が刻まれているのが特色。中尊の阿弥陀如来が脇侍の観音菩薩、勢至菩薩と共に飛雲に乗った来迎図で光背を背に緑泥片岩に線刻されている。高さ 97cm、幅 33cm で、美しさは県内屈指といわれる。

県指定

## 2 神流川のお川瀬下げ神事

中山神社の祭りは御神体を神輿に乗せ青年が担いで神流川へ入り、勢いよく右廻りで 3 回清め、川瀬に設けた神座（御旅所）に安置する。神官が祝詞を奏上し無病息災、五穀豊穰などを祈る。帰途はお川瀬道の左右に積み上げてある小石の燈籠を倒しながら練り歩き、社殿へ戻る。

## 28 お諏訪様の桜

下船子の小さな沢の尾根に根を張る桜は諏訪神社の参道にあり、開花期は鳥居をくぐる参拝者等を優しく迎えている。種類はアズマヒガンといわれ、樹高約 25m、目通り約 4m、樹齢推定 300 年超である。広がる枝張りは見上げると迫力があり、満開時は最高である。

## 24 高塩東沢のイチイ

当地では珍しいイチイは、黒澤家先祖の墓地にあり、樹高約 13m、目通り約 3m、枝張り約 16m、樹齢推定 800 年の巨木である。先覚者黒澤万三顕彰碑に、建久 3 年（1192）先祖が当所へ移住して開墾したとあり、その頃に植えたものといわれる。

## 18 土生神社の彫刻

土生神社の本殿を飾る猿や龍、鳥、魚、花などの精巧な彫刻が随所にあり、色彩をつけた当初の痕が残る部分もある。文化 6 年（1809）大工厳蔵と記はあるが、彫刻の制作者、年代は不詳。天明期と文政期に御幣の勧請をしているので何らかの社殿の改修があったといわれる。

## 23 西御荷鉾山の「㊥（マルダイ）」

西御荷鉾山は不動尊を祀る霊山である。17 世紀末の元禄年間、生利村に疫病が発生し祈願すると治癒した。御礼に南側の草地へ村民が径 100m を超える丸に大の字を刈り出した。現在は保存会を中心に毎年九月の日曜日に実施。四季の景観に合わせて美しく映し出ている。

県指定

## 3 瀬林の漣痕

中生代白亜紀の 1 億 2 千万年前、この地域は海で砂や泥が堆積してできた砂岩や泥岩の「瀬林層」という地層である。地層面に残る魚鱗状に並んだくぼみは漣の痕で砂浜に残ってできた化石、舌状漣痕である。昭和 60 年（1985）、表面のへこみが恐竜の足跡と判明する。

## 26 龍松寺のしだれ桜

樹高約 21m、目通り約 3.7m、枝張り約 16m、樹齢推定 300 年のしだれ桜、品種は「羽衣」。細枝が広い境内から石段を覆うように垂れ下がり、春の青空を背景に見事な花を咲かせる様子は壮観である。明治時代、3 度の大火を生き延びた強く逞しい桜である。

## 13 大正院・九蔵の力くらべ石

江戸時代 18 世紀中頃、塩沢村の怪力の持ち主だった大正院（黒澤源内）と師匠九蔵が力くらべのため、塩沢川上流から担いで運んだ石といわれる。大正院石は高さ 77cm、幅 60cm で九蔵石は高さ 85cm、幅 70cm で重さは 150kg 超と推定される。力くらべは娯楽の一つであった。

## 29 みかぶ帯の枕状溶岩

万場高校対岸付近の枕状溶岩は厚さ 10 ～ 20m で秩父古生層の「みかぶ帯」に属し、玄武岩や凝灰岩を主に石灰岩、粘板岩、チャートなどの薄い層がまじっている。海底火山活動により次々に流れ出た溶岩が海水で冷却されて枕状に固まって形成され、露出している。

## 14 石造閻魔大王と奪衣婆

明治 11 年頃、焼失廃寺となった麻生村の長安寺跡にある石造の閻魔大王（像高 85cm、幅 65cm）と奪衣婆（像高 80cm、幅 55cm）は元禄 14 年（1701）村中の奇進により安置されたもので、制作は信州高遠の石工といわれる。石像は当時の民間信仰を知る貴重な遺物である。

## 25 八倉下り山の大杉

八倉集落の東、寺地跡近くの尾根端にある。昔、八倉神社の神が甘楽の郷から峠を越え持ち帰った苗木を植えたといわれる。樹高約 15m、目通り約 7.3m、樹齢推定 650 年。風雪に耐えてきた巨木である。通称「八倉の大杉」という。

## 21 相切の庚申塔（青面金剛像塔）

「享保四年己亥九月吉祥日敬白」「奉造立庚申供養村中施主」の銘がある。総高 145cm、塔身は正面 26.5cm、側面 21.5cm、高さ 70cm の四角柱に宝珠のついた笠が載った「六臂日月二鶏三猿」である。享保 4 年（1719）、相切村が十石街道端へ建立した町の代表的青面金剛像塔である。

## 12 青面金剛塔

庚申信仰のため元禄 12 年（1699）、高八木村講中 11 人が村の三本辻に造立。径 36cm、厚さ 13cm の蓮弁台座に高さ 62cm、幅 31cm の塔身中央に青面金剛童子の像を浮き彫りし、上方に日輪月輪を配し、下方に三猿が彫られた「六臂日月三猿」の庚申塔である。

## 27 恐竜の足跡

昭和 60 年（1985）研究者が「瀬林の漣痕」上部の穴は水辺の砂浜を歩いた大型恐竜の足跡で右上部から左下にかけての凸凹模様は小型恐竜の足跡であると公表。日本最初の恐竜の足跡化石発見である。当時の中里村は恐竜王国を宣言した。

## 17 東福寺の殿鐘（半鐘）

本堂に吊り下げてある半鐘は法要などの合図に鳴らし殿鐘という。陰刻文字より、元禄 14 年（1701）上州鑄物師の作で神原村の人が寄進。鐘身は径 34.2cm、高さ 43.9cm に龍頭 16.1cm がついた県内 3 番目の古さである。大きな龍頭で特に宝珠が大きく装飾的である。



## 19 東福寺本堂の造作

東福寺は慶長 11 年（1606）創建。今の本堂は正徳 3 年（1713）竣工（格天井は 7 年後）。須弥壇と上部の組物・前机・露柱・鶯張廊下は樺材で美しい。砂利磨戸は 8 枚で法堂の天井は格天井作り、欄間部分は彫刻や両面透かし彫りで装飾されていて、素晴らしいといわれる。



## 4 鰐口

中山神社は中世の鰐口を三個保管。指定の鰐口は径 25cm、厚さ 7cm の円形で「應仁二年戊子十二月十三日、大旦那□平伊豆腐丸、上州高山鷹蔵七所権限鰐口」の刻字がある。当初、応仁 2 年（1468）に高山村（現藤岡市）の七所権限へ奉納されたのであろうといわれる。



## 22 中山神社太々神楽

中山神社の例祭（4 月 15 日近くの日曜日）に奉納する神楽は明家産泰神社社の太々神楽で、諸説あるが京都から伝えられたという。明治中頃の講中は 1000 人余である。現在の神楽舞は「鏡開き」「大蛇退治」など 18 座ある。地元有志による保存会が祭日に奉納する。



## 20 木造開山芳谷永磨像、木造大権修理菩薩像、木造達磨大師像

東福寺の①開山芳谷永磨像は総高 77cm で開山堂に、②達磨大師像は 63cm、③大権修理菩薩像は 72cm で共に須弥壇の後部左右に安置。3 軀は椅子に腰かけた像である。木札から①と②は宝暦 5 年（1756）村人の寄進であり、椅子の造りや彩色から③も同年代の制作という。



## 16 不動明王像と観世音菩薩像

龍松寺に安置の①不動明王像は像高 58cm、②観世音菩薩像は 25cm、共に木造で「願主大正院明和八年十一月吉日」とある。塩沢村の大正院（黒澤源内）の作といわれ、自身の守り本尊として剣技等の研鑽で諸国を廻る時に持ち歩いた 2 軀である。昭和 27 年、子孫が寄進した。



## 15 鏡鉞と銅鑼

大林寺所蔵の鏡鉞は径 30 と 32cm の 1 組で銅鑼は径 30.5cm、重さ 2kg 「為月州居士大林寺住物」の銘があり、青銅製の仏具である。寛保 2 年（1742）寺は死者 24 名の大災害の土石流で埋没した。昭和 42 年（1967）寺地跡から発見、次世代の災害の警鐘となる遺物である。



## 8 流鏑馬の的と鏃



万場八幡宮所蔵で正和 2 年（1313）制作の宝物として伝わる。檜の的は長さ 145cm、重さ 25kg と長さ 135cm、重さ 22kg の 2 個、鏃は長さ 19.6cm ～ 10.8cm の鉄製 9 本である。祭礼は 8 月 15 日で流鏑馬を行い、矢を奉納したという。馬場は町並の直線の道が推測される。

## 6 郷土刀（脇差二振）

宮前家所蔵の脇差は江戸時代中期、山中領下山郷生利村飯島の刀鍛冶国重（本名山本藤蔵）の制作。長さ 35.7cm、幅 3.0cm、反り 1.2 と長さ 31.3cm、幅 2.8cm、反り 0.3 の 2 振である。藤蔵は修行を重ね師匠安国（武州住人）より名を刻む免許を得た。



## 5 郷土刀（脇差一振）

新井家所蔵の脇差は江戸時代中期、山中領下山郷生利村の刀鍛冶国重（本名山本藤蔵）の制作。長さ 51.2cm、幅 3.1cm、反り 0.3 である。享保 4 年（1719）將軍吉宗の御前で師匠とともに刀を打って献上。師匠により藤原国重の名を刻む免許を得た。



## 11 石棒

石棒は縄文遺跡から多く発見されているが、用途は明確でない。小平の土生神社に祀られている石棒は長さ 83cm、中央周 47cm、抱えるのがやっとの大型で石刀にも見える。本殿の中に祀られていることは男根を模した御神体で子孫繁栄、五穀豊穡を祈願したといわれる。



## 10 石棒

石棒は縄文時代の磨製石器で町内の縄文遺跡から発見されている。生利の御神社には御神体として社殿の中へ祀られていて、長さ 62cm、径は 10 ～ 13cm である。男根を模して子孫繁栄や豊作、生産などを祈りの対象にしたといわれる。



## 7 十六羅漢襖絵

作品は相原村生まれの郷土画家鷺岳（本名新井信太郎）が 84 歳の昭和 6 年（1931）の制作である。黒田の聖澤寺の吹き抜け本堂で御本尊を見おろすように 16 枚の襖に十六羅漢が一人 1 枚ずつ威厳に満ちた表情で描かれ両側に 8 枚ずつ配されている。



## 神流町全図

